

* 玉屋のトランシットの寄贈

アーカイブ室新聞 第49号(2008年8月6日発行)に「乗鞍にあったTAMAYAのトランシット」という記事を書いた。その記事を見て自分もその記事のトランシットとそっくりの玉屋製のトランシットを持っているという方から譲ってもいいという連絡をいただいた。乗鞍にあったトランシットはまだアーカイブ室に収蔵されていないので「お譲りいただけるならぜひ」といただきに相模原まで行った。電話ではずいぶん前に骨董屋で手に入れて楽しんでたというお話であった。どういったお方か全く存じ上げない訪問であったが、訪問して驚いた。かなりの会社の相談役に退かれた倉本俊司という方で、「試作・開発をやっており、私たちは“世の中にないモノ”を作り出す事が仕事です」という会社を起こされた方であった。いろいろなものを集め、それらの創意工夫からいろいろなことを学ぶのだと話されていた。なんと飛行機の実物大の模型を何機も作り、科学館などに納入もしており、また実際に飛ぶ飛行機も作ったというから驚きであった。その方から譲られた玉屋の「トランシット」が写真1である。

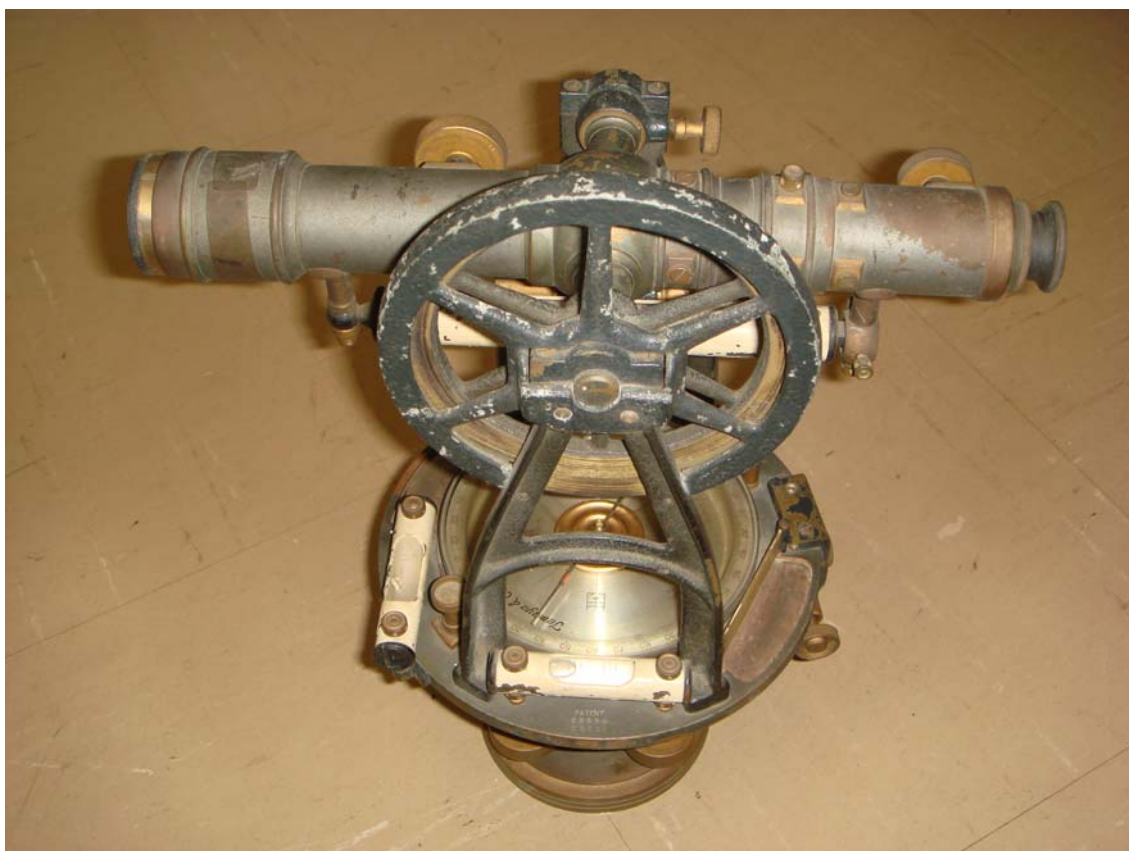


写真1 倉本氏から譲られた玉屋製トランシット

乗鞍で見つけた玉屋製のトランシット写真 2 と今回、倉本氏から譲渡されたトランシット写真 3 を比べると細部ではいくつかの点で異なっている。大きな違いは接眼鏡の焦点調節のラックピニオンのつまみがあること、架台のフレームが直線と曲線の違いである。



写真 2 乗鞍にあったもの



写真 3 倉本氏から譲渡のもの

写真 4 は、乗鞍で見つけたトランシットのコンパス部分の名盤、写真 5 は倉本氏から譲渡されたトランシットのコンパス部分の名盤である。乗鞍の方(写真 4)と倉本氏からの譲渡品(写真 5)では名盤の「Tamaya & Co., Ltd. Ginza Tokyo」の z の表記に違いがある。

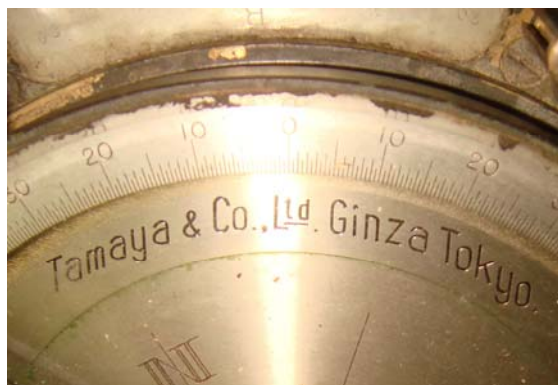


写真 4 乗鞍にあったもの



写真 5 倉本氏からのもの

シリアル No. を見ると倉本氏から譲渡されたものの方がずっと古く No. 1604 (写真 7)、乗鞍にあったものが No. 3928(写真 6)と読める。

トランシットは測量器械の 1 種であり天文の器械とはいえないかもしれないが、測地学は天文学に非常に近い学問で、筆者が若い頃には測地学会に天文台の先生方の多くが参加していた。台長をされていた古在先生も一時は測地学会会長だったと記憶している。天文台構内に測地学委員会の施設もあり、国際報時所、菱形基線なども測地学委員会の施設であった。一等三角点も天文台構内の隅にあり、磁気点も天文台構内の菱形基線のなかにあ

った。標石というものが失われることはよくあることだとは聞くが、測地学委員会がおかれていた天文台構内の磁気点が失われたことは非常に残念である。



写真6 乗鞍にあった地理調査所と書かれたトランシットのシリアル No. 3928



写真7 倉本氏から譲渡されたトランシットのシリアル No. 1604

このシリアル No. からも分かるように、測量器械のトランシットは珍しいものではない。測量の黎明期の明治初期には主としてイギリス、ドイツ製の経緯儀が輸入され経緯度の測量が行われたが、玉屋が初めて日本製の測量器械を製造し、その内の複数点が東京天文台にあり、アーカイブ室所蔵となる。

今回、貴重な玉屋製のトランシットを寄贈していただいた倉本氏の会社のホームページは<http://www.omegatechno.com>であり、天文関係者にとっても有用な情報が多数ある。天文台のような実験の道具の製作の相談相手としては非常に参考になるように思えた。